

ベルーガの超音波映像化

鴨川シーワールド

16日から「高い能力見える形に」

鴨川市の水族館「鴨川シーワールド」でシロイルカのベルーガを展示する施設「マリンシアター」が改装され、13日、内覧会が開かれた。改装は耐震補強工事を兼ねたもので、ベルーガなどのイルカ類が障害物の位置などを捉えるために出す超音波を映像化する新たなシステムを導入した。16日にオープンする。



目隠しをしながら輪をくぐるパフォーマンスを披露するベルーガ。上のスクリーンでは、ベルーガが発した超音波が映し出される（鴨川市で）

新展示施設の目玉は、水槽の正面、左右を囲む客席から見えるよう、水槽の上3面に設けられた大スクリーン（高さ2・5メートル、横の長さ計28メートル）。700あった観覧席を659席に減らし、車いす席を設けた。水槽ではベルーガ2頭とネズミイルカの計3頭が生活する。高い知能を示す行動がガラス越しに見られる。

イルカは超音波を出し、暗い場所で物の位置や形を識別したり、仲間とコミュニケーションを取ったりしている。その音波を水槽内で拾い、波形や強弱をスクリーンで同時に表示する仕組みだ。同水族館と民間会社が約1年かけて開発した。

同水族館によると、ベルーガを展示する水族館は国内に4館あるが、動物が発信する超音波を映像化する施設は国内で初めてという。勝俣浩館長は「イルカの高い能力をそのまま伝えたい」と思い、音を目で見える形に挑戦した」と語った。